

プロの運用管理者になるための逆張り思考

1. 人間は騙されやすいものである、ということ認識する

だまされやすい人＝「先生」と「社長」と「官僚」
⇒知的好奇心があり、知識レベルが高く、プライドも高い
知らないと言えない・わからないと言えない・貴方だけ…に弱い

(実は金融機関関係者も…)

2. プリンシパル＝エージェント問題 の存在を認識する

プリンシパル＝エージェント問題

エージェンシー・スラック (受託者であるエージェントが依頼者であるプリンシパルの利益ではなく、自己の利益のために行動してしまうこと)

プリンシパル＝エージェント問題とは、プリンシパル と エージェントとの間に「情報の非対称性」が存在することで「エージェンシー・スラック＝モラルハザード」が発生することをいう

3. 自分が「何を知っているか？」ではなく、「何を知らないか？」を認識する

自分が知らないことを認識することで、判断の正確性が増す
自分が知らないことを認識することで、モニタリングの穴が判る

より具体的には…

4. 「よいファンド探す」という発想を捨てる

運用機関やファンドマネージャーは「戦略の執行者」に過ぎない。
プレゼンを聞いて興味を持ったら、同種の戦略を採用している他社を探して比較する。

他の誰もやっていないような戦略など、この世界には存在しない

5. 「損をしないファンドを探す」という発想を捨てる

標準偏差は管理できるリスク
標準偏差というリスクを潰すと、管理できない別のリスクが浮上する

6. 「海外の年金は進んでいる」という発想を捨てる

短期金利がある世界、デフレではない世界、でしか運用をしたことがない人達が作った運用理論は日本の年金には役に立たない。

同様にゼロ金利となった海外年金は今後「『日本の年金のように』ヘッジファンド投資を積極化するだろう」(ロンドンの FOFs 談)

7. 「高度な運用＝理解不能」という発想を捨てる

説明できないような金融理論など存在しない。
理解ができないのは、聞く側の問題ではなく、伝える側の問題

理解できないほど高度な運用だから儲かる、、と思うのは大間違い

よりよい管理者となるために最も大切なこと

＝管理可能なポートフォリオを作ること